

令和三年度第三十四回夕暮祭短歌大会入賞歌

秦野市長賞

(敬称略)

たばこかき いい子で居ると 頭をなでた 大きな祖父の 脂色の手

神奈川県秦野市

田中 恵美子

秦野市教育委員会教育長賞

雲のくぢら汐吹くさまに時雨きて峡田の大根抜くを急ぎぬ

宮城県仙台市

畠山 昭二

秦野短歌会会長賞

断捨離の断はできても捨で迷い離は利に変わり今日はここまで

愛知県名古屋市

稲熊 明美

山田吉郎選者賞

コロナ禍に幕天席地ならずとも野に寝転びて行く雲ながむ

山口県周南市

山村 進

寺尾登志子選者賞

見えるまま描けばよいと聞いてから青色捨てた私だけの空

東京都大田区

四宮 伶

佳作

六連符・シンコペーション延々と続く軒端は雪消の祭り

東京都目黒区

飯田 聖子

突然に漂う香り金木犀坂の終わりで秋が始まる

静岡県浜松市

内田 菜月

亡き父の癖まで真似て編むかこの振れ直せば縁どりゆがむ

茨城県ひたちなか市

小田倉 量平

はらはらと崩れてしまふおにぎりを母の見ぬ間に握り直せり

新潟県南魚沼市

木村 圭

突き抜ける新東名の高架下里人たちは落ち葉掃くなり

神奈川県秦野市

草刈 敏文

夕暮も眺めにけらしこの丘に菜の花越しの丹沢麗はし

神奈川県厚木市

小菅 建夫

山深き牛舎の房にひとつずつ花籠飾るさみどりの春

神奈川県藤沢市

近藤 千壽

「どっこいしょ」存在告げる合言葉 南瓜ごろんと吾につぶやく

埼玉県上尾市

鈴木 良二

ワンピースのファスナーが布を噛む夕に今日という日の付箋の張りつく

山口県光市

瀬戸内 光

春くれば 学年上がり 新景色 不安と緊張 春に捨ててく

東京都葛飾区

武田 泰輝

ねむる子の脛軋む音も聴こえそう生き急ぐものばかりの夏だ

千葉県千葉市

寺内 ゆり子

春の月「バスケしん？」ってもつかいさ言つてよ都会へ出るあんたから

静岡県浜松市

遠山 寧々

点滴棒握るちいさき手はいつか蝶捕らうべし院内学級

神奈川県茅ヶ崎市

芳賀 はな

強張りし指おしひろげ積木つむ春の陽のさすりハビリ室に

神奈川県秦野市

松島 明美

明後日に飛んだペーパー・プレーンを拾いに行けば過去は遠くて

東京都品川区

杜崎 ひらく

陽炎にハイクの足も止まりたり雲雀の基地のやうな阿夫利嶺

神奈川県伊勢原市

山田 ゆたか

コンパスの躍るペン先ほつといてぶれない"しん"に私はなりたい

静岡県浜松市

山本 明日菜

競ふこともう何もなし今日ひとり備中ふり上げ天地返しす

愛知県愛西市

横井 和幸

ウイルスで今日もあしたも「通せん坊」光に向かう羽虫のように

神奈川県秦野市

和田 英夫

新盆に石橋渡り村に入る橋のどこかに父の組み跡

奈良県奈良市

和田 康